

天地創造

スケールとかたちによる空間試考
The Genesis

これはかたちとスケールによる空間について考えている研究である。

あるかたちを想像してみる。そこには大きさ、長さ、広さ、高さそして深さなどの基準がないかたちだけが存在しているいわゆる「Non scale」の世界である。まだ、そこには空間が生まれていないかたちだけが存在している。

手のひらに入れる小さい物から自分の身体感覚を遥かに超える風景までの間では無限に近いスケールがある。そして、それらによる価値判断の基準は人によって異なるが、対象になるものが存在しないスケールだけがある世界で無に近い暗黙な決めごとだけが存在し空間は存在していない。

つまり、上に述べたかたちとスケールからは個別としては空間が生まれない。空間はその二つの条件が共存することから生まれてくると私は思う。それは空間の最小限の条件でありながら、建築になるきっかけにもなる。

空間が成り立つことに注目し、それを可視化することがこの研究の主な目的である。

この研究では純粋な空間を抽出するため、あえて単純なかたちと明解なスケール感覚を設定している。かたちは一枚の紙とワンアクションで作られたものを対象物として挙げている。研究の途中では純粋なかたちの議論もあり自分の身の回りにある物のかたちを研究対象にすることも想像したが、それには常に機能やデザインの意味が含まれていと判断され排除している。

紙からのかたちをスケールに適用することによって単なる紙のシワで過ぎなかった部分が空間になったり、折られた紙の部分が巨大な屋根のような空間になる。あるいは、思い切り巨大にするとそれは風景のような空間になる。巨大な空間に圧倒され緊張感を感じたり、小さな隙間や緩やかな丘のカーブに安定感を感じたりする。シンプルな空間操作であるが、少しずつ微妙に違う空間の感覚はそれぞれ異なる。

スケールがかたちを伴うことで初めて空間になり、それにはさまざまな空間価値が潜んであると思う。

現代建築は効率と機能というキーワードが建築の成り立ちの強い妥当性になることが多いが、建築の成り立ちにいつかは空間価値の要求はどこかしら出てくる。それは建築においては省略出来ない過程である。そして、この研究から作られたそれぞれの空間もあえて効率と機能の論理では言い切れずに、空間そのものを純粋に見せている。

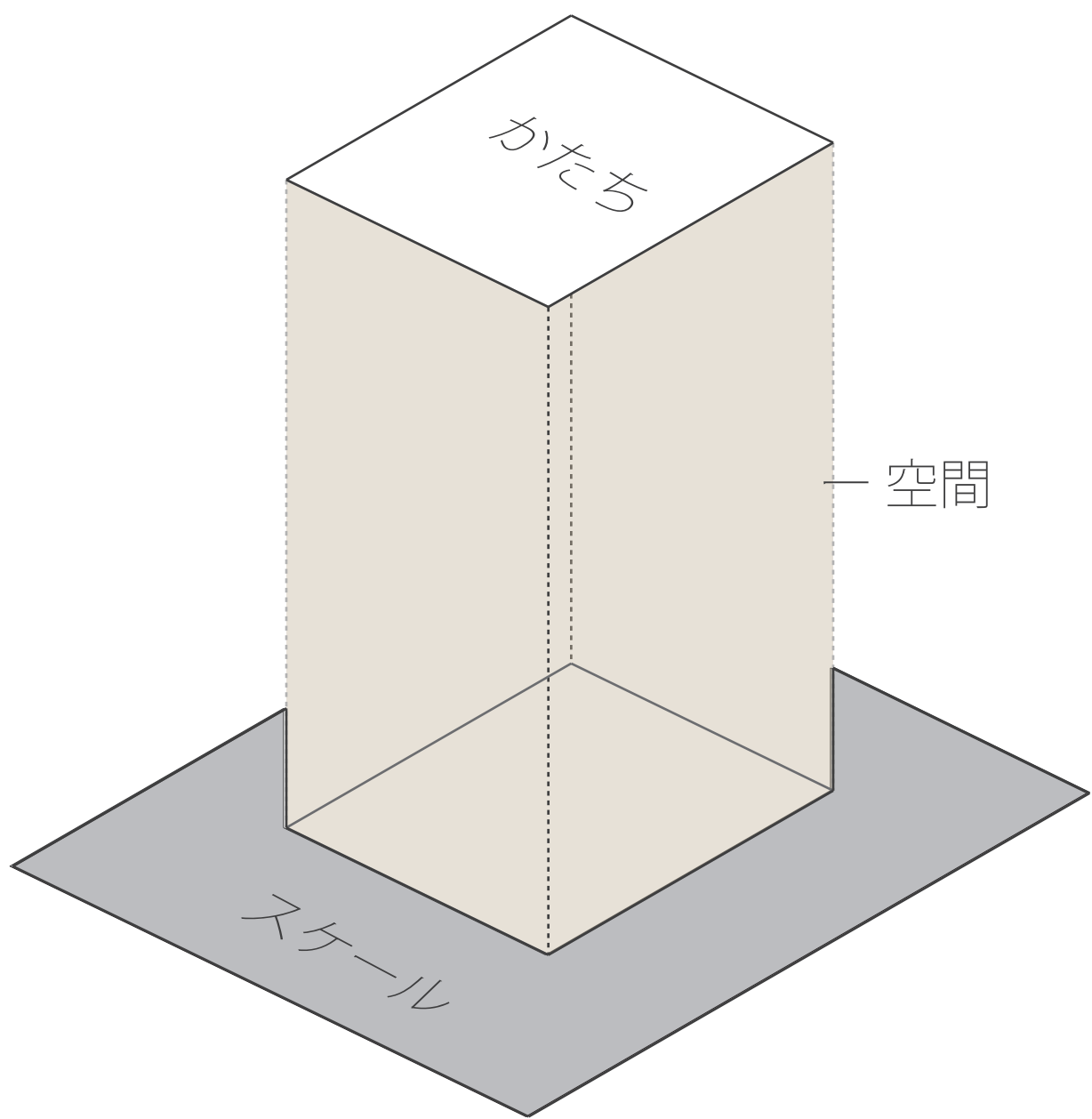
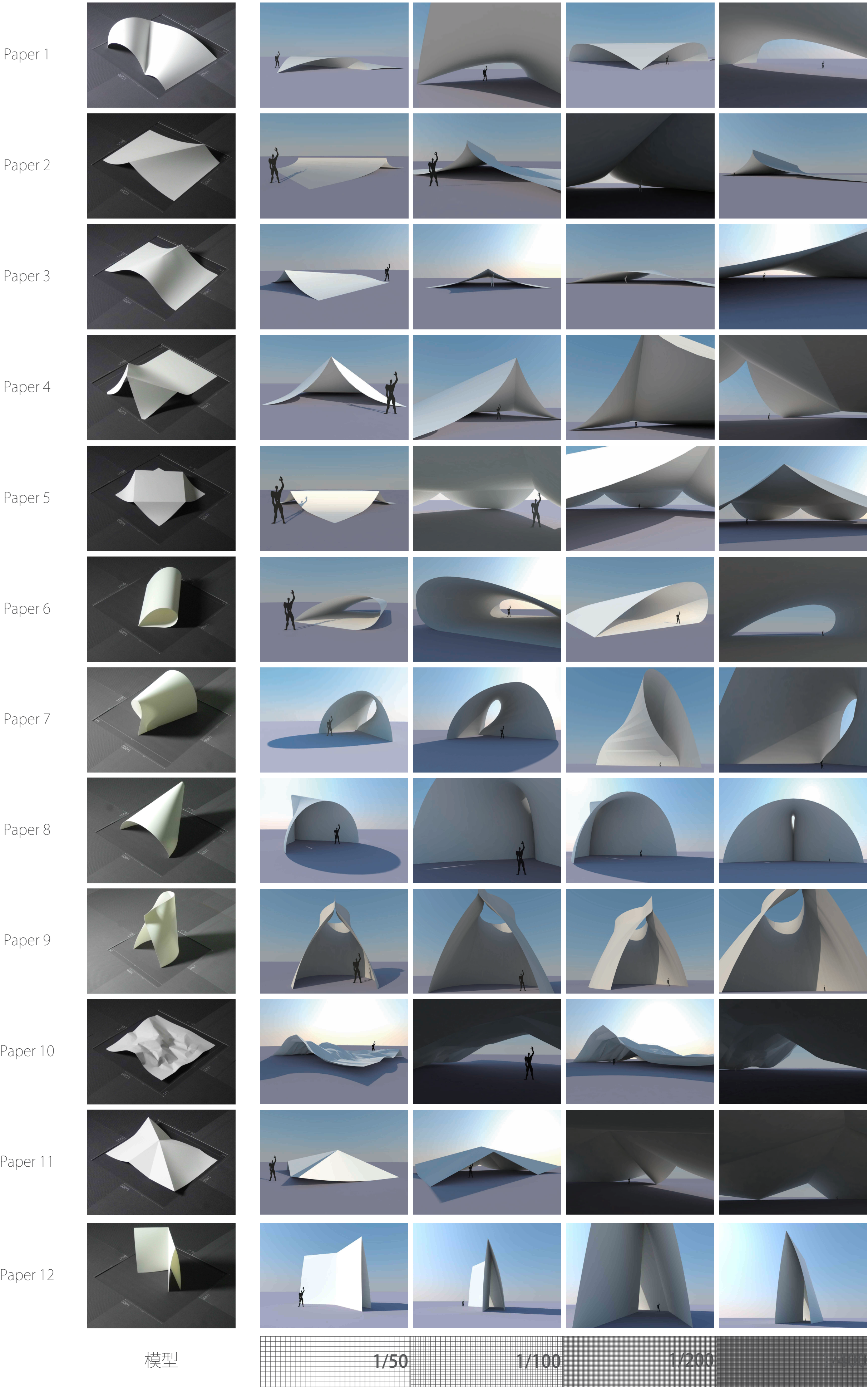
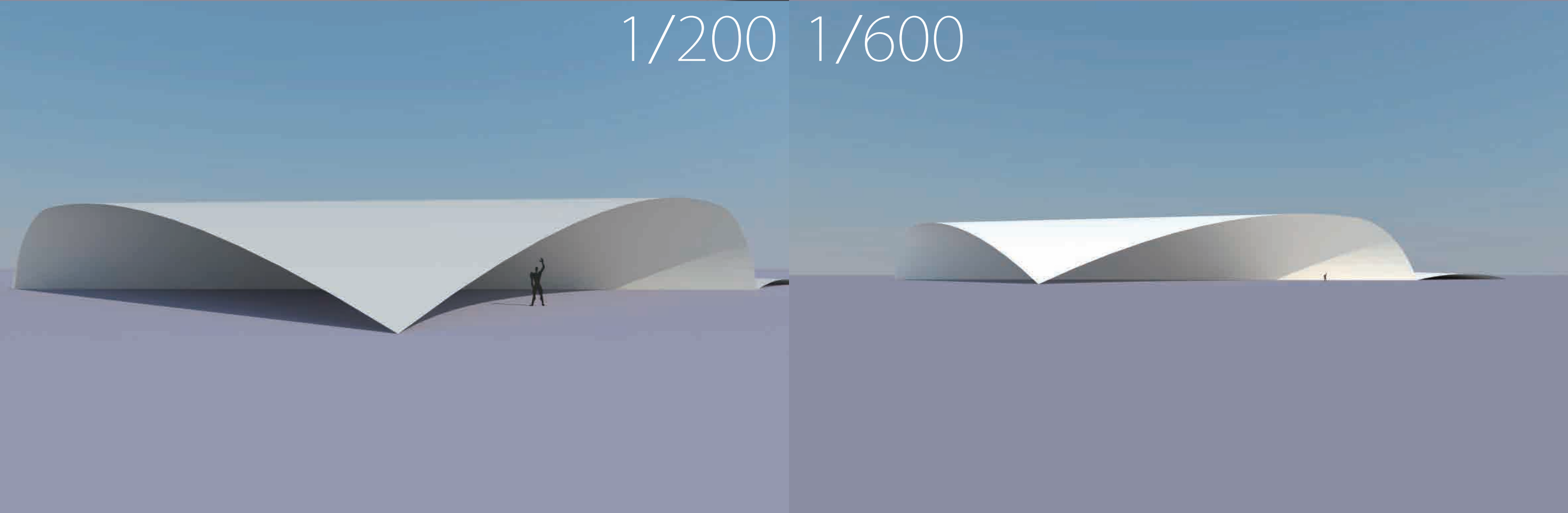
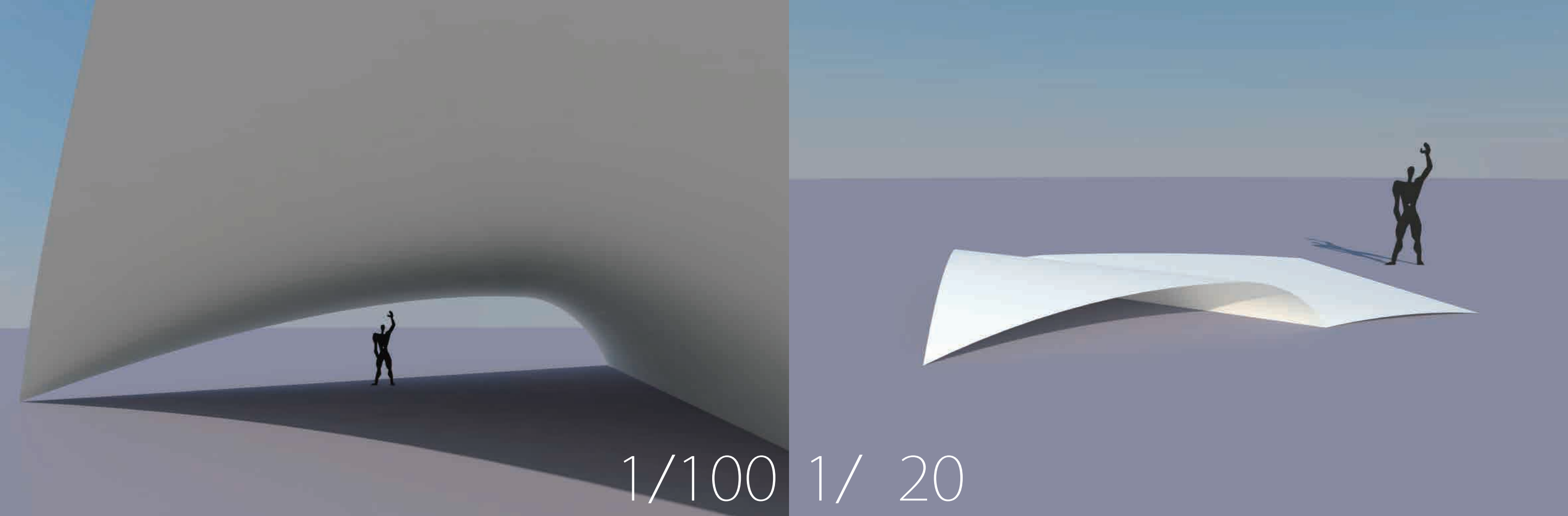


Diagram / 空間のイメージ

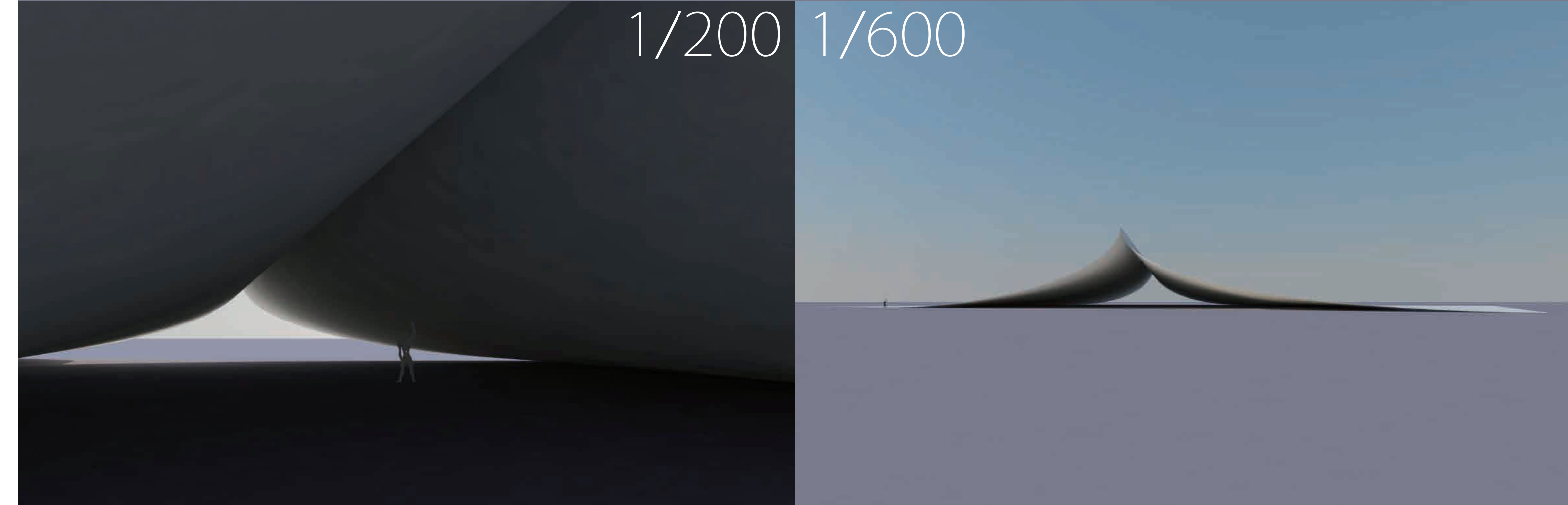
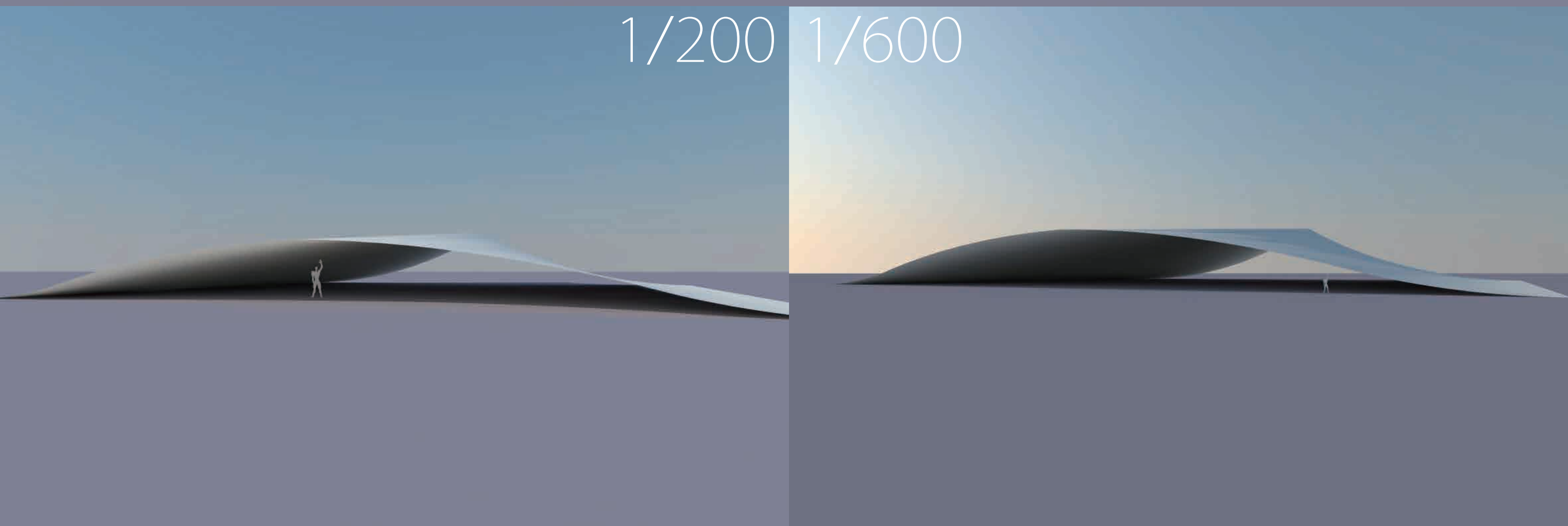
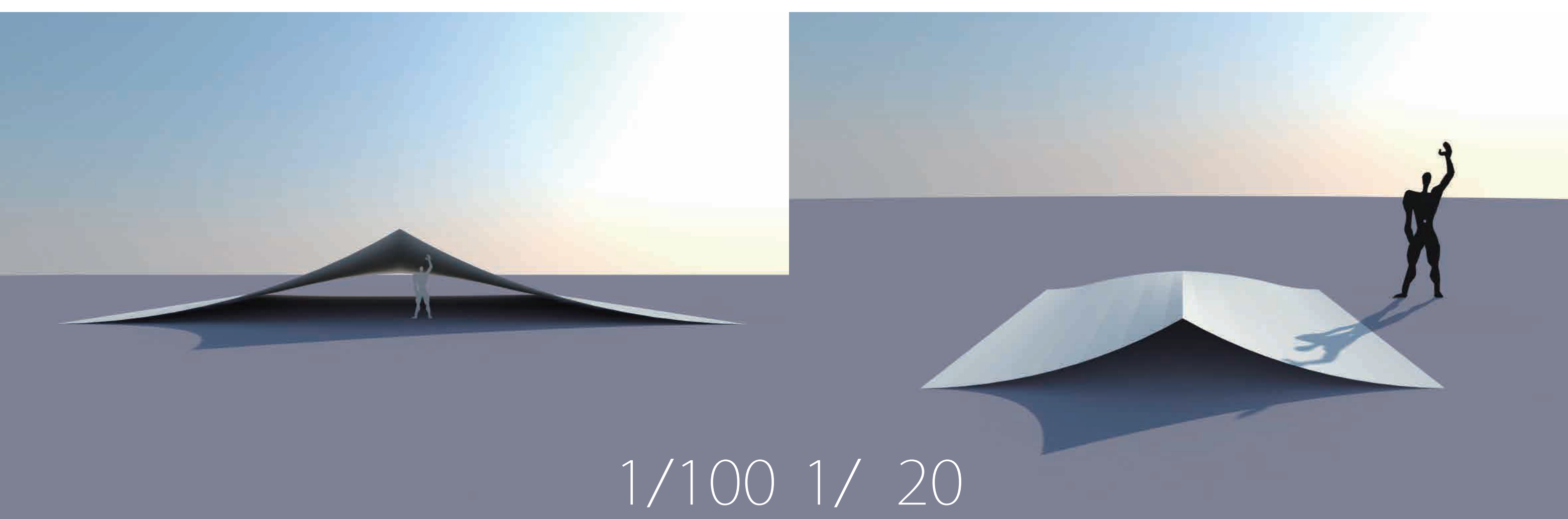
聖書に書かれている「天地創造」は空間が始まる瞬間を明解に記述しているのもである。宗教のこととは無縁にその内容はこの研究で空間を想像することと決して変わらないと私は思う。建築はあるかたちに無限に近い「Any scale」から「Human Scale」を考えると同時にその中から空間の価値を求める行為である。この研究はその明解な空間作りを目指している。





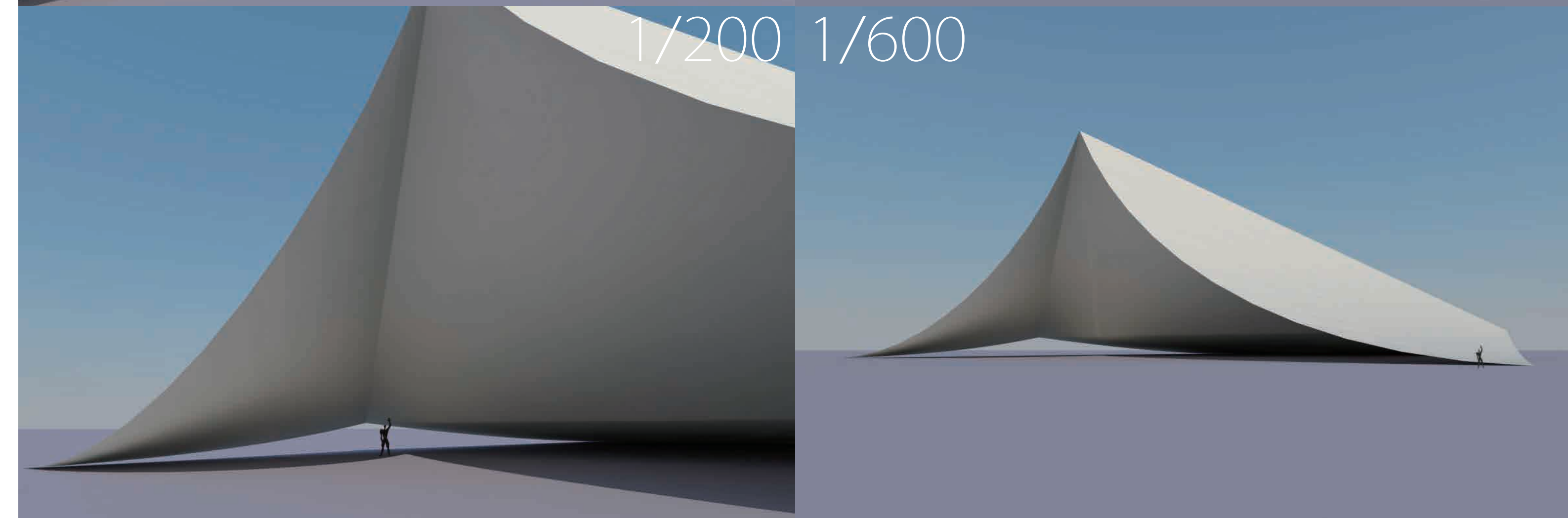
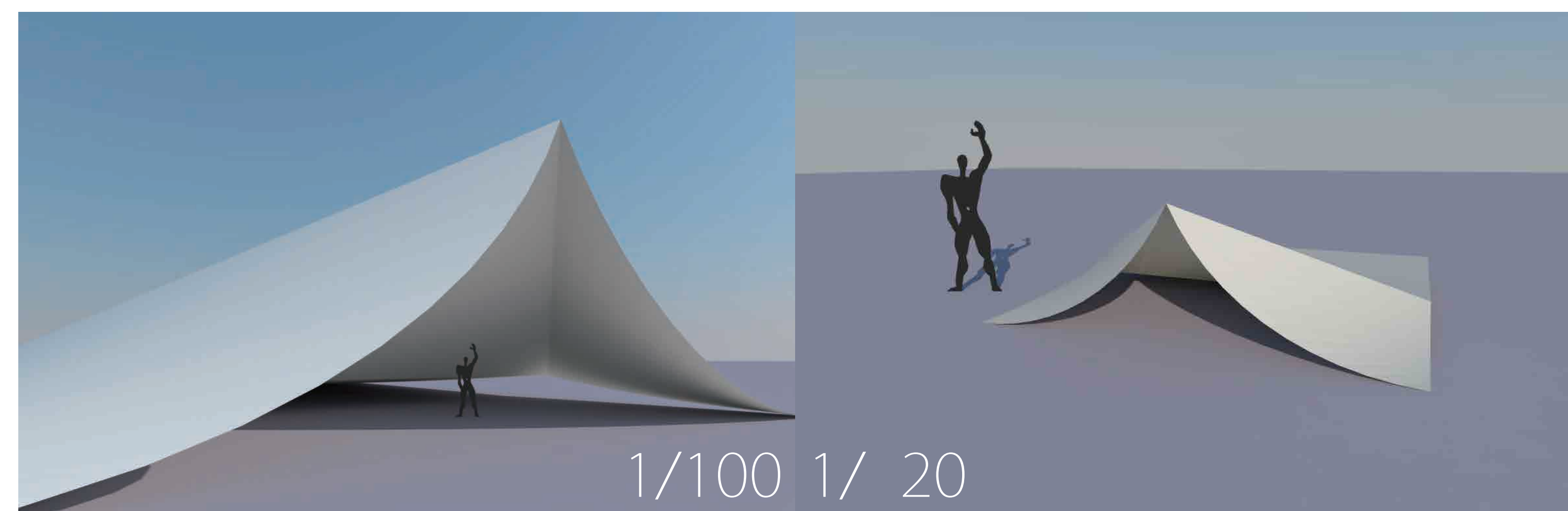
■ Paper 1

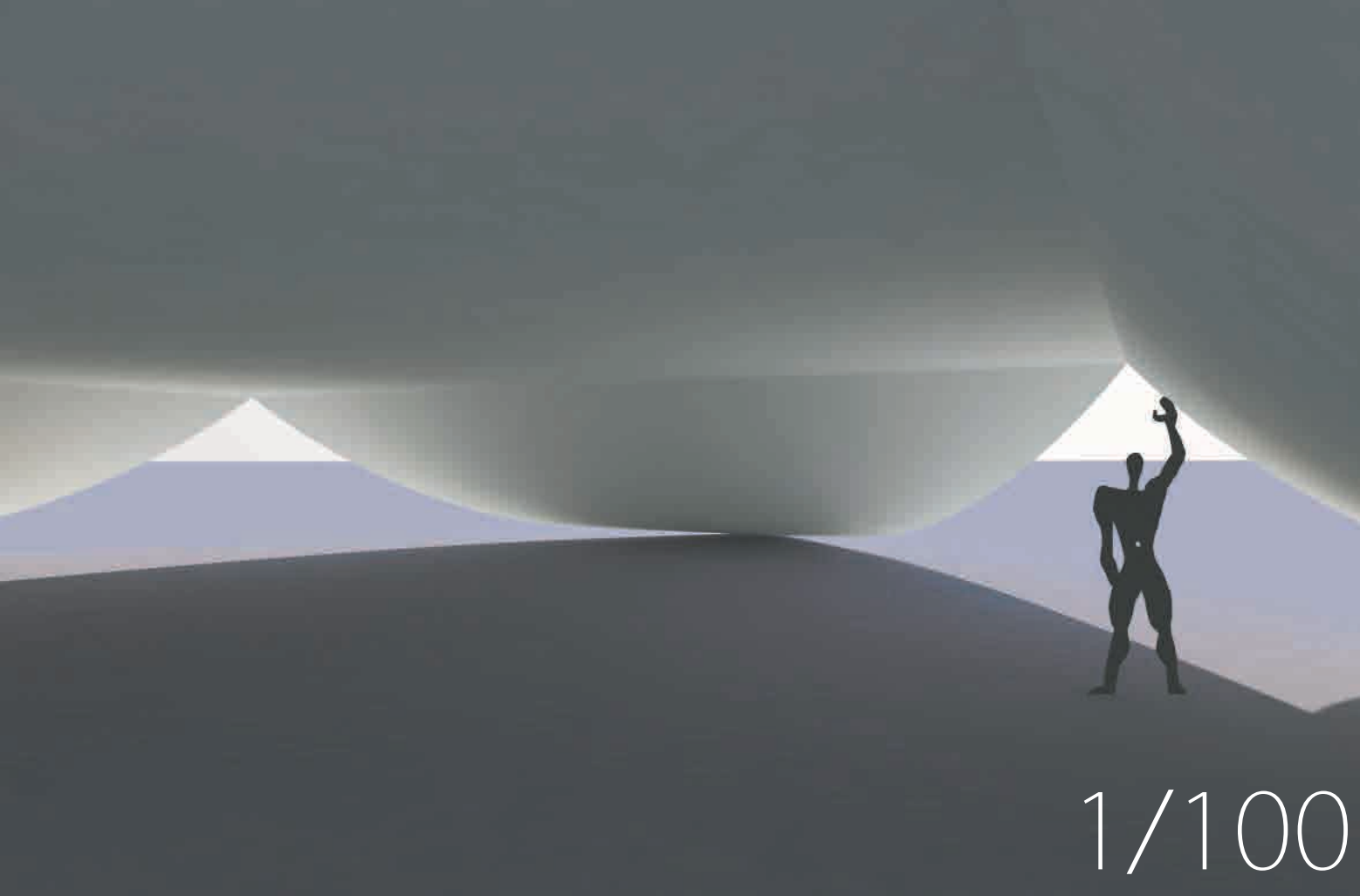
■ Paper 3



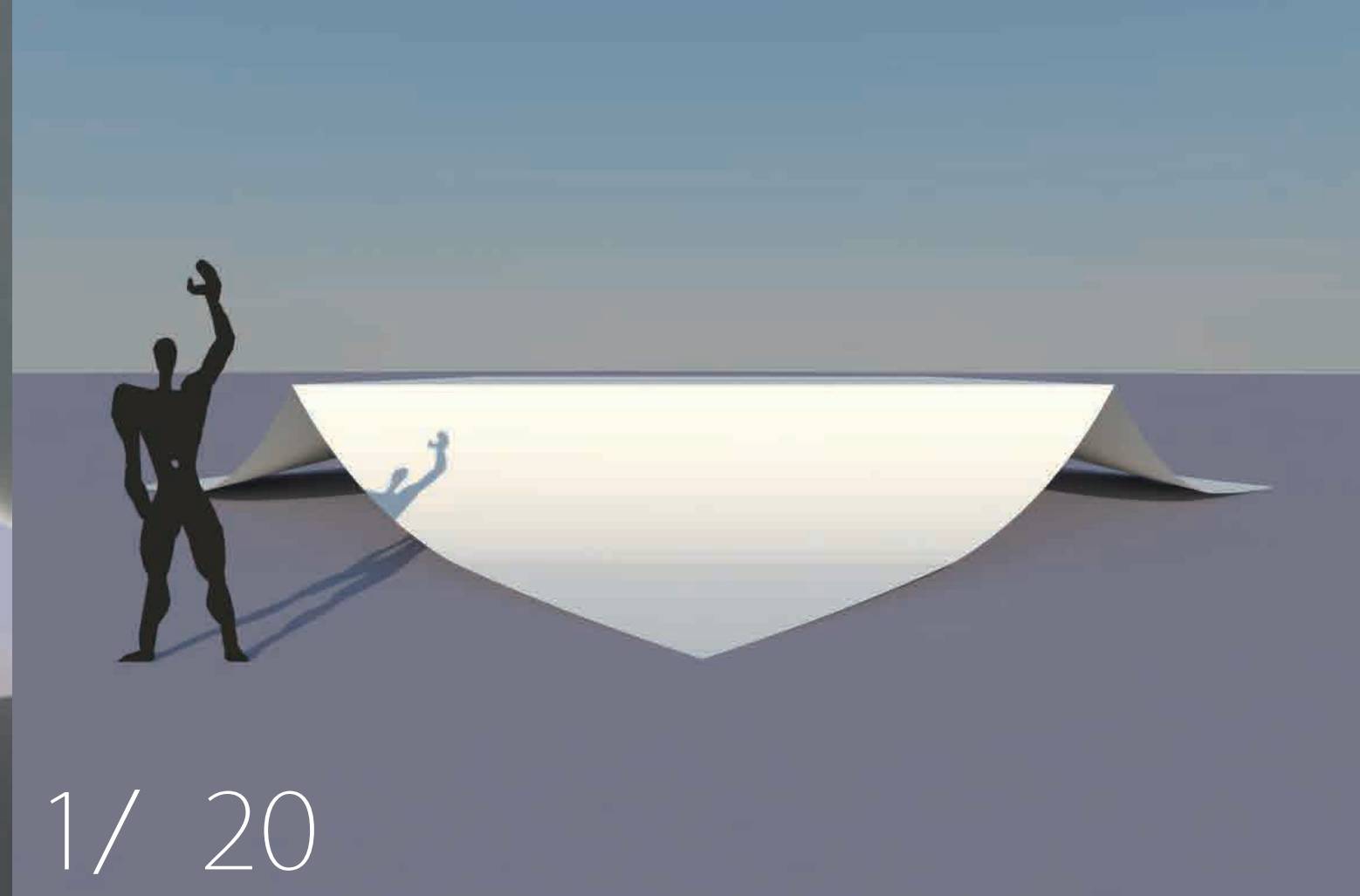
■ Paper 2

■ Paper 4

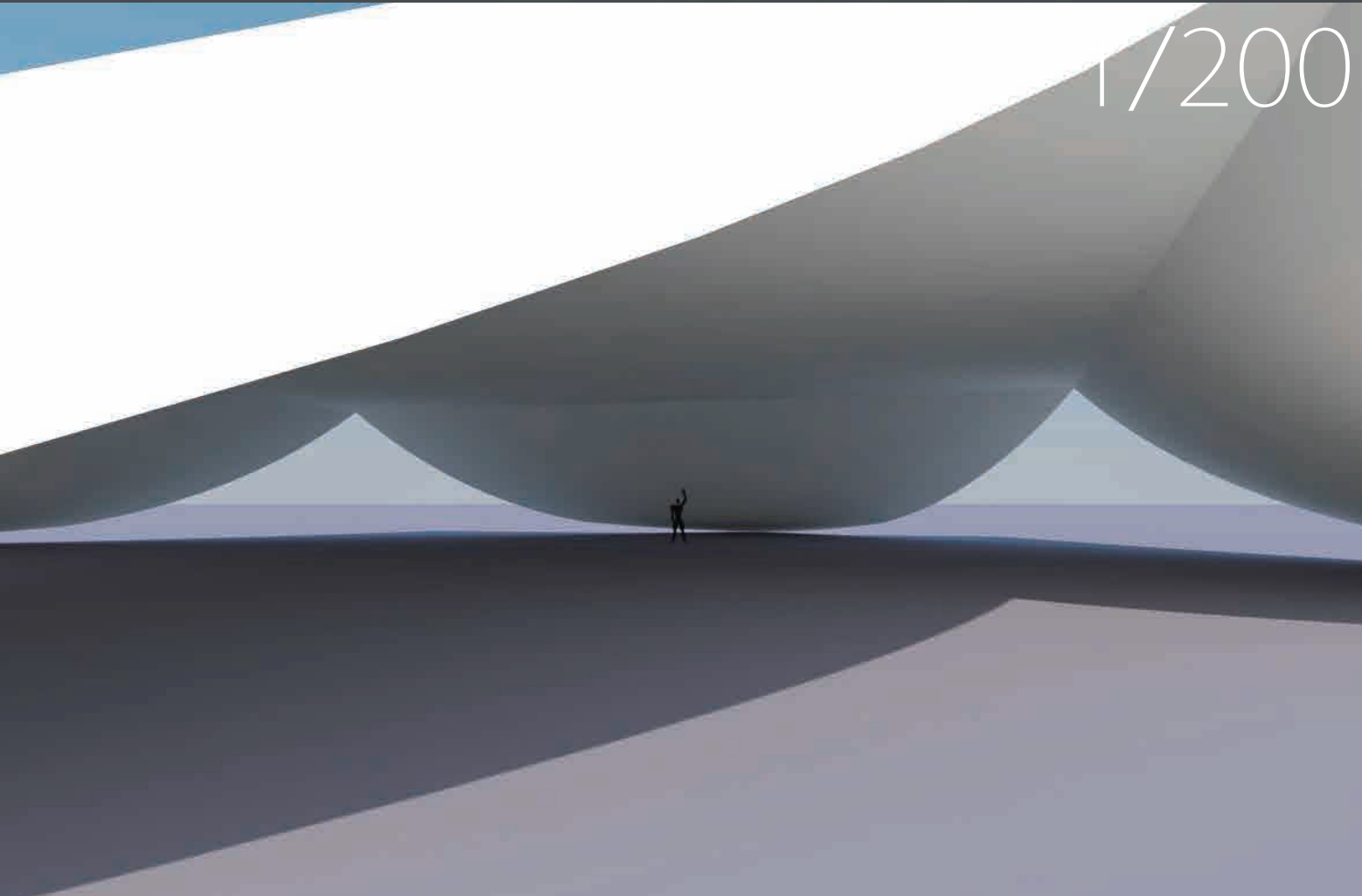




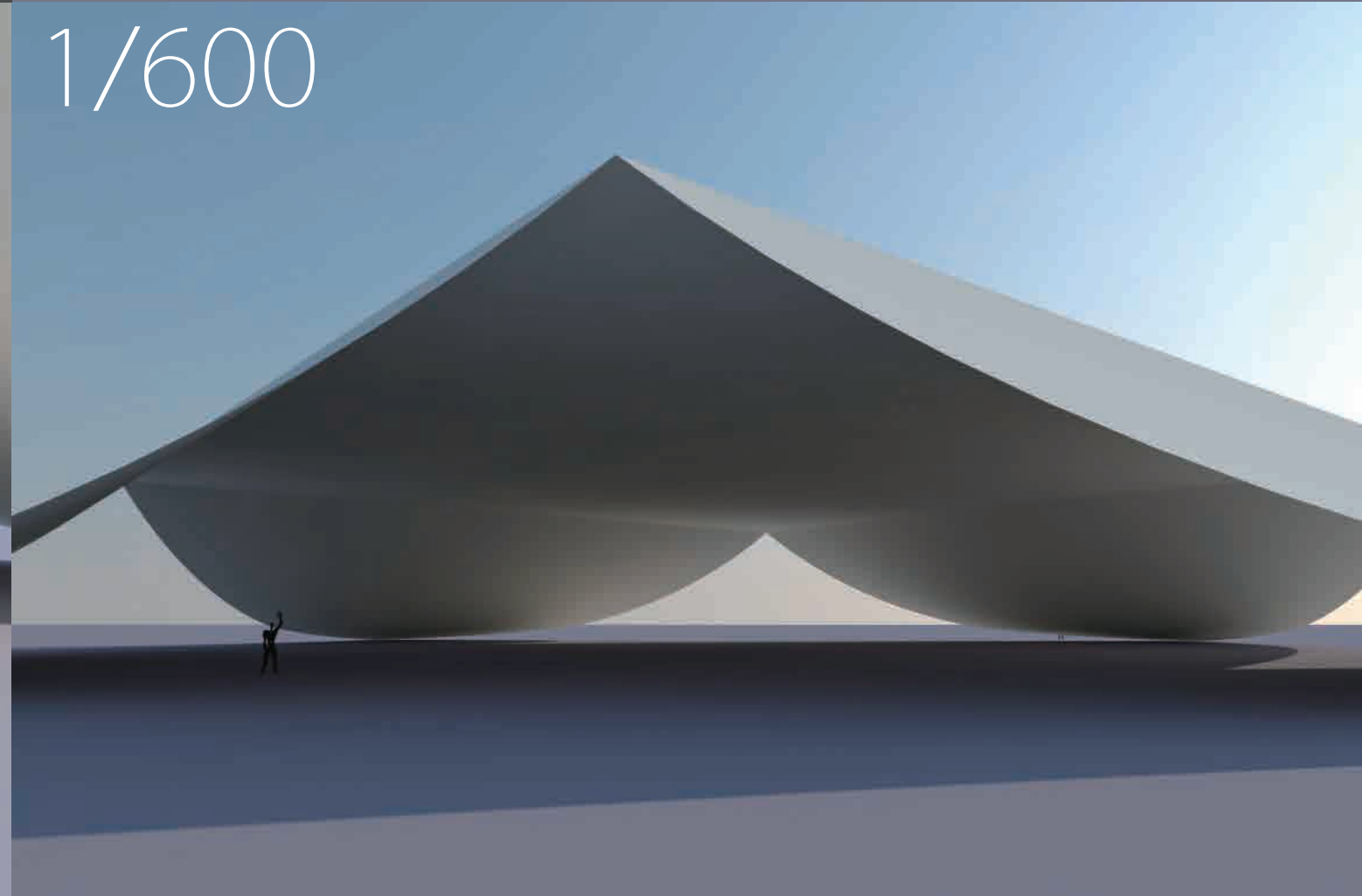
1/100



1/ 20



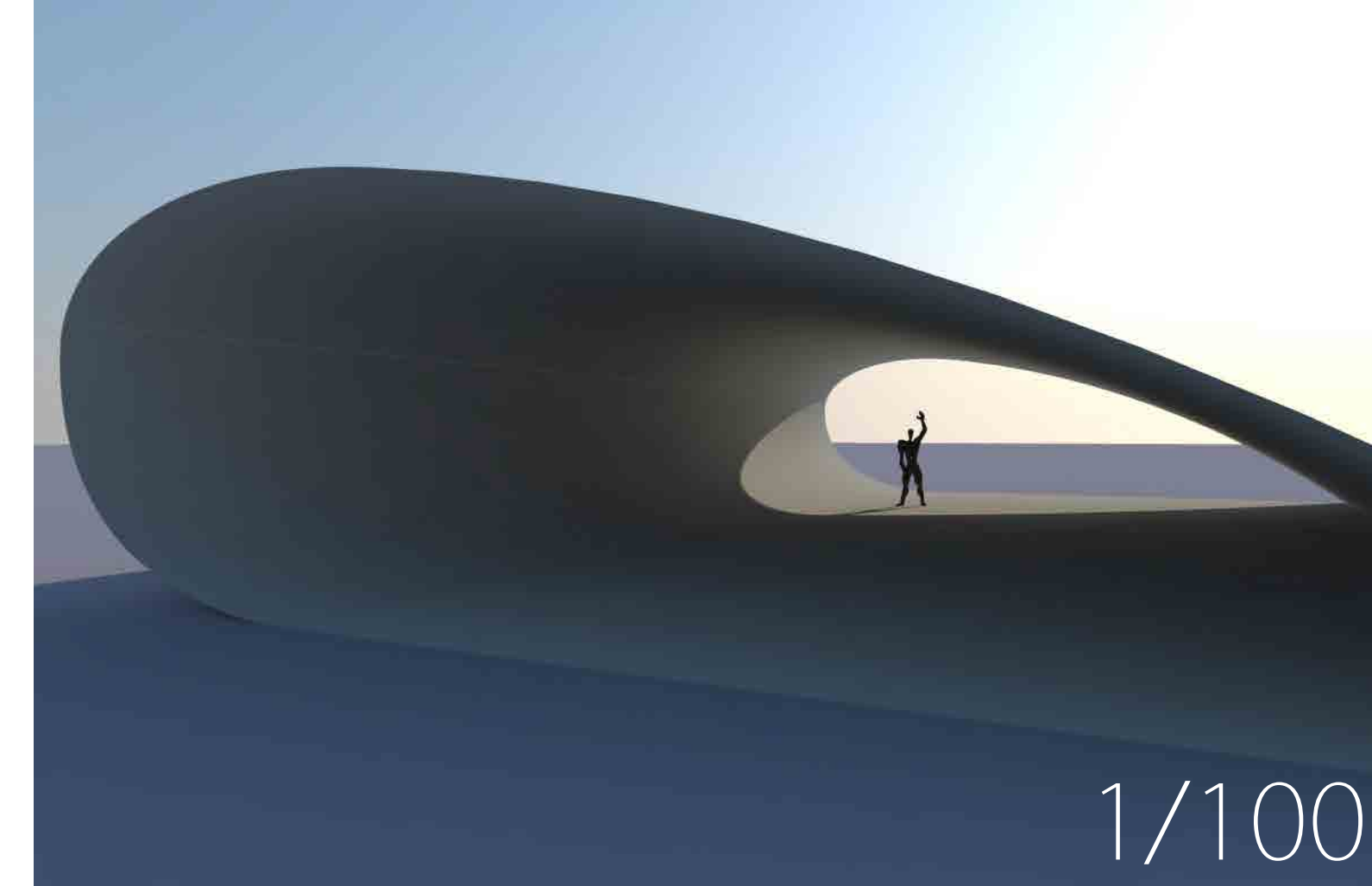
1/200



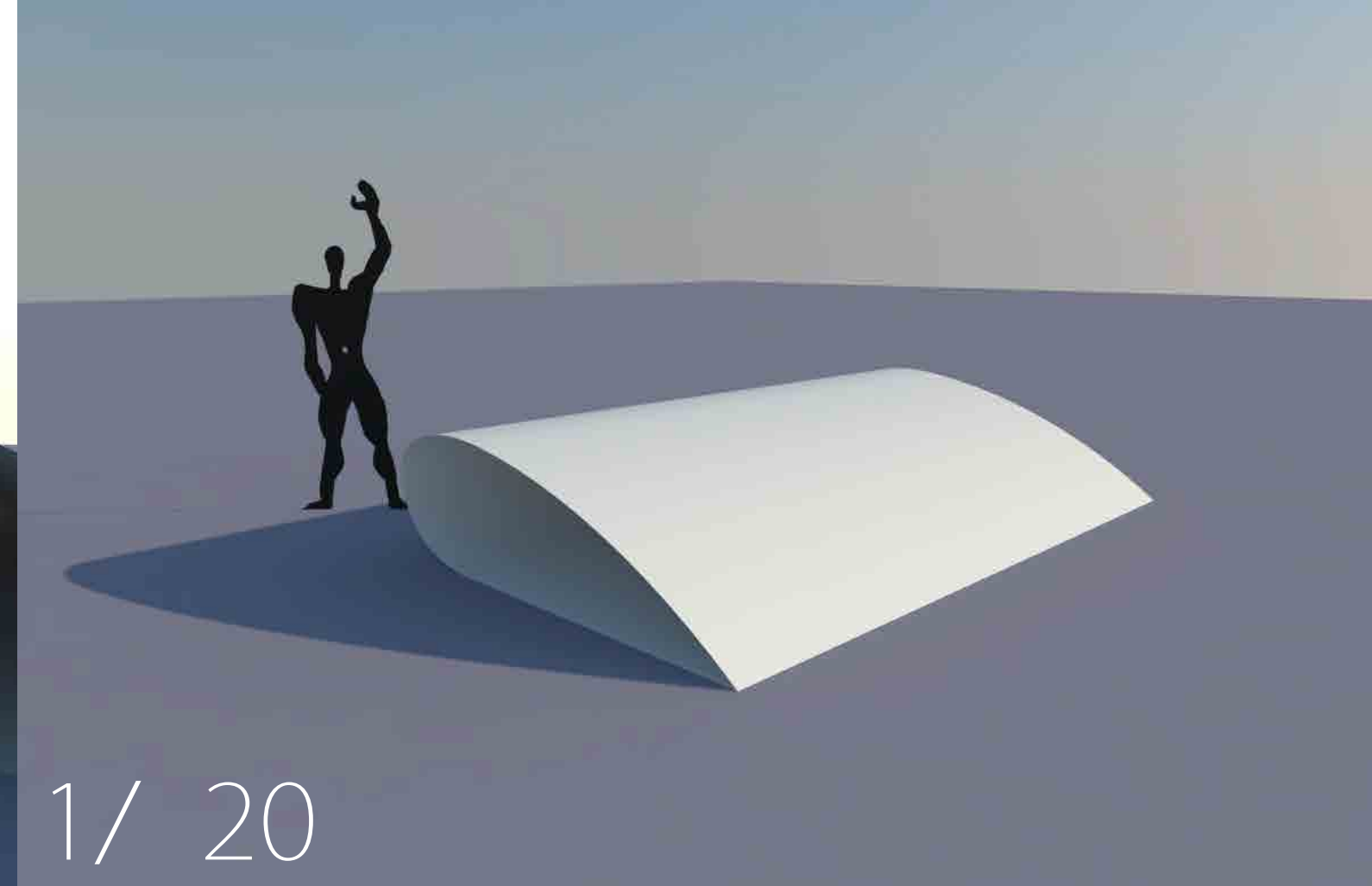
1/600

■ Paper 5

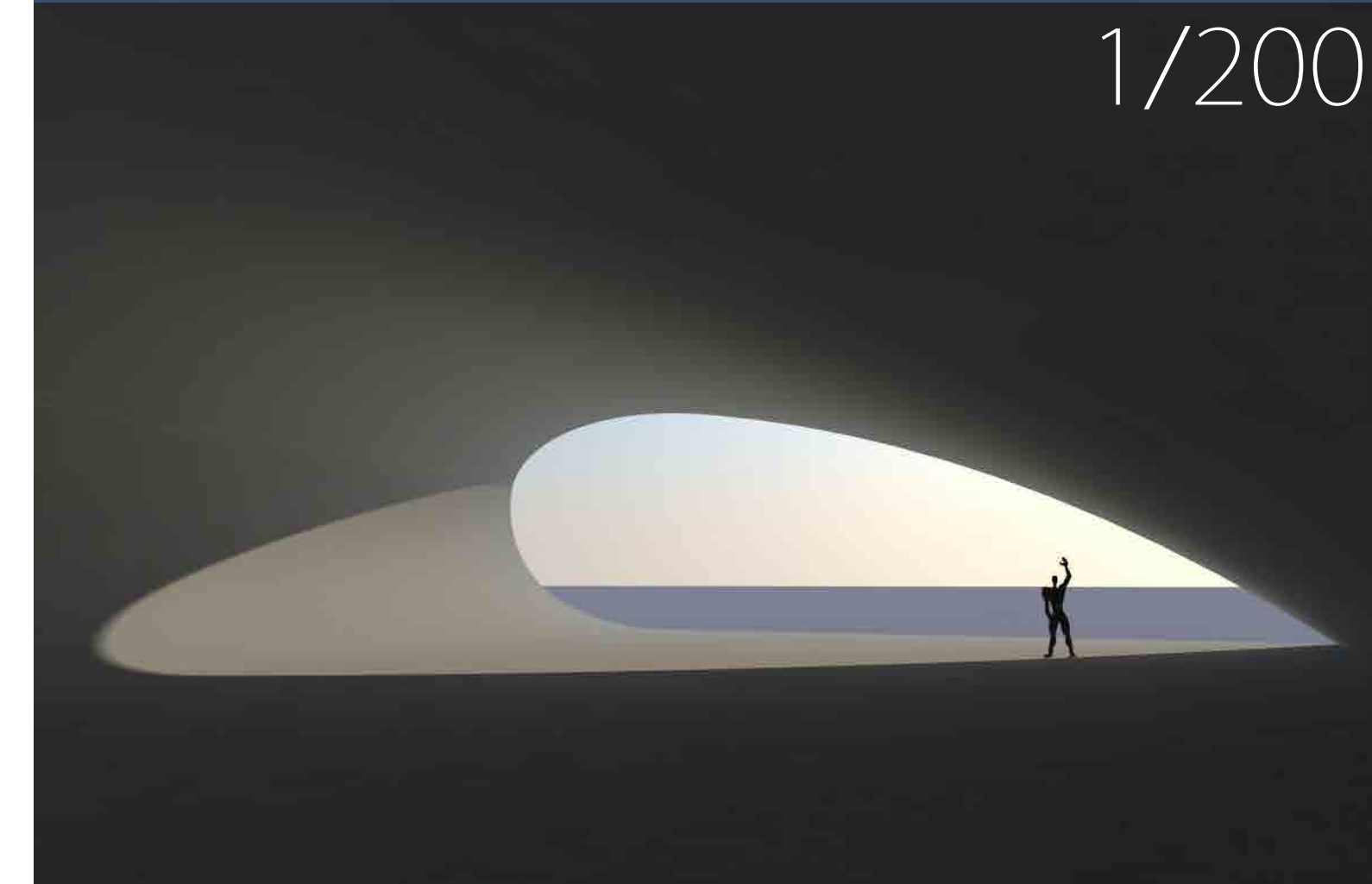
■ Paper 7



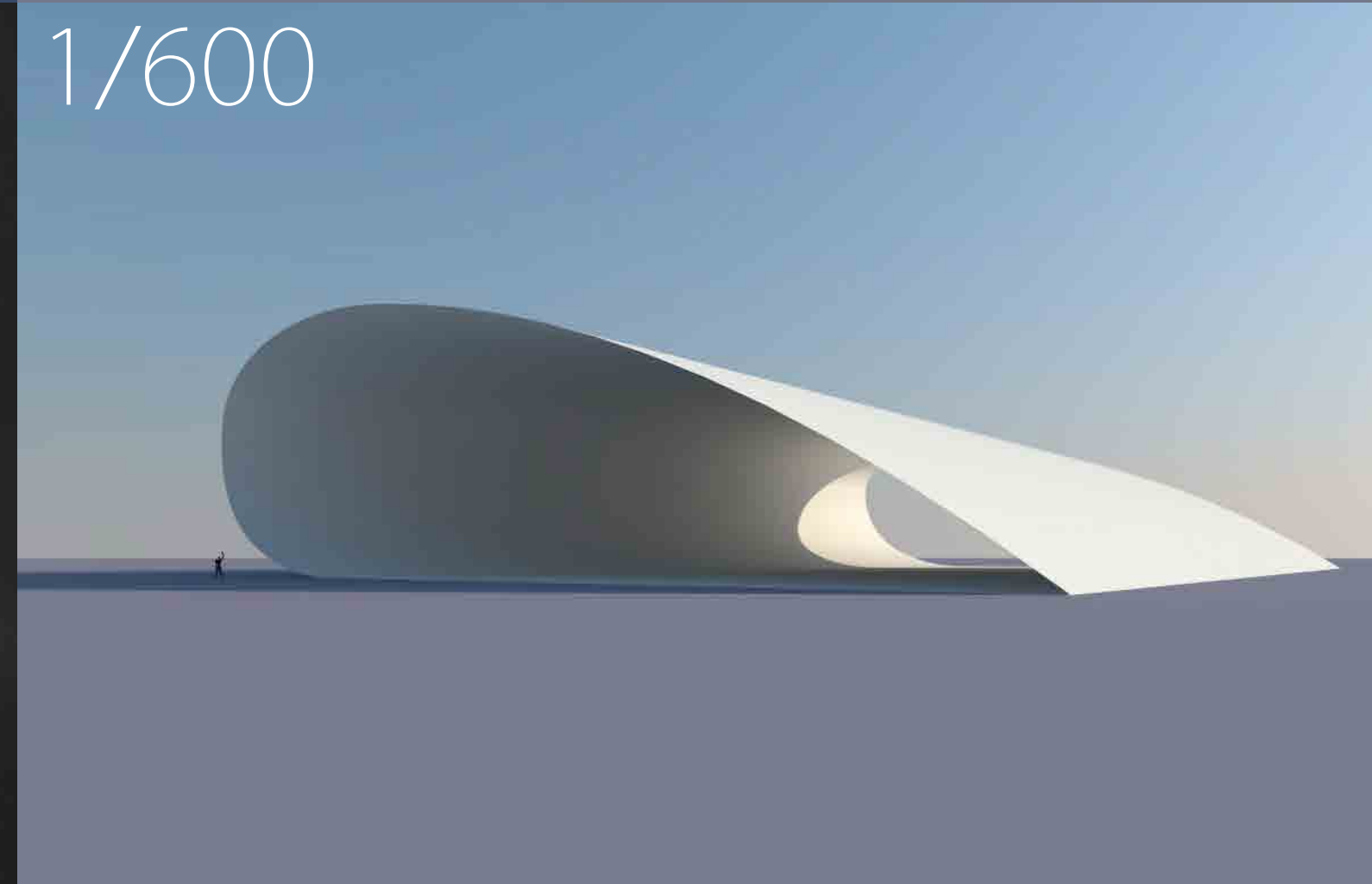
1/100



1/ 20



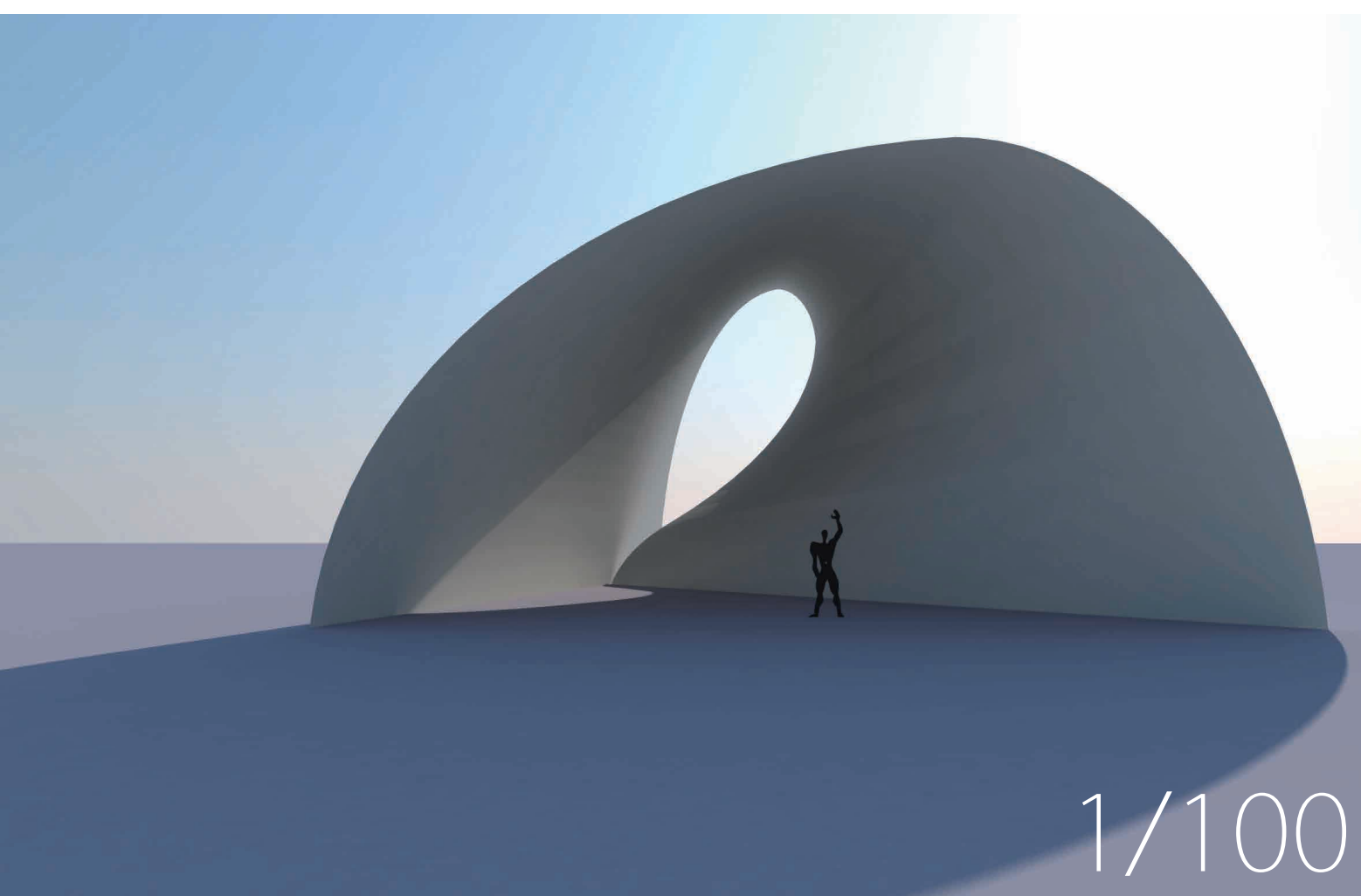
1/200



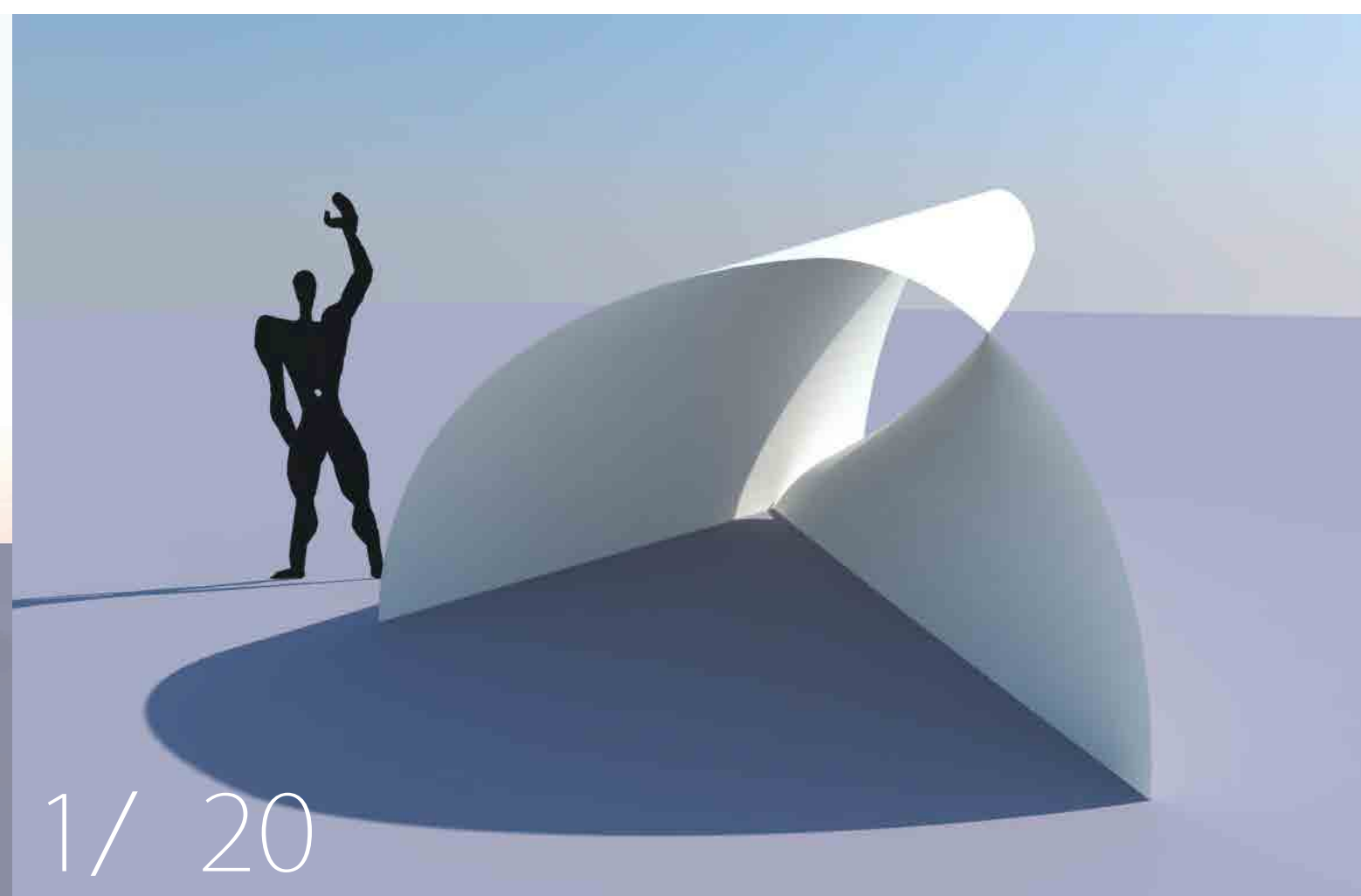
1/600

■ Paper 6

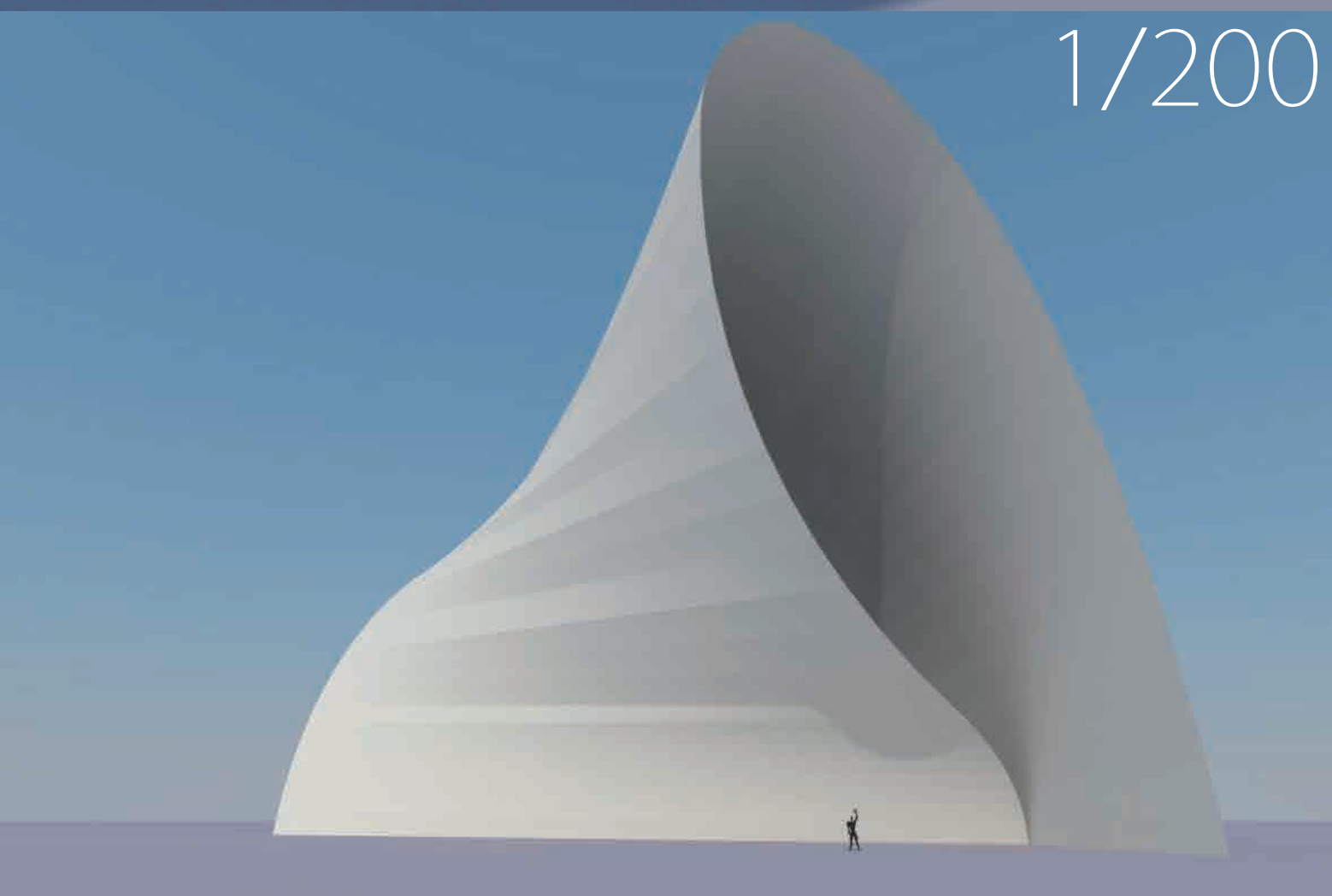
■ Paper 8



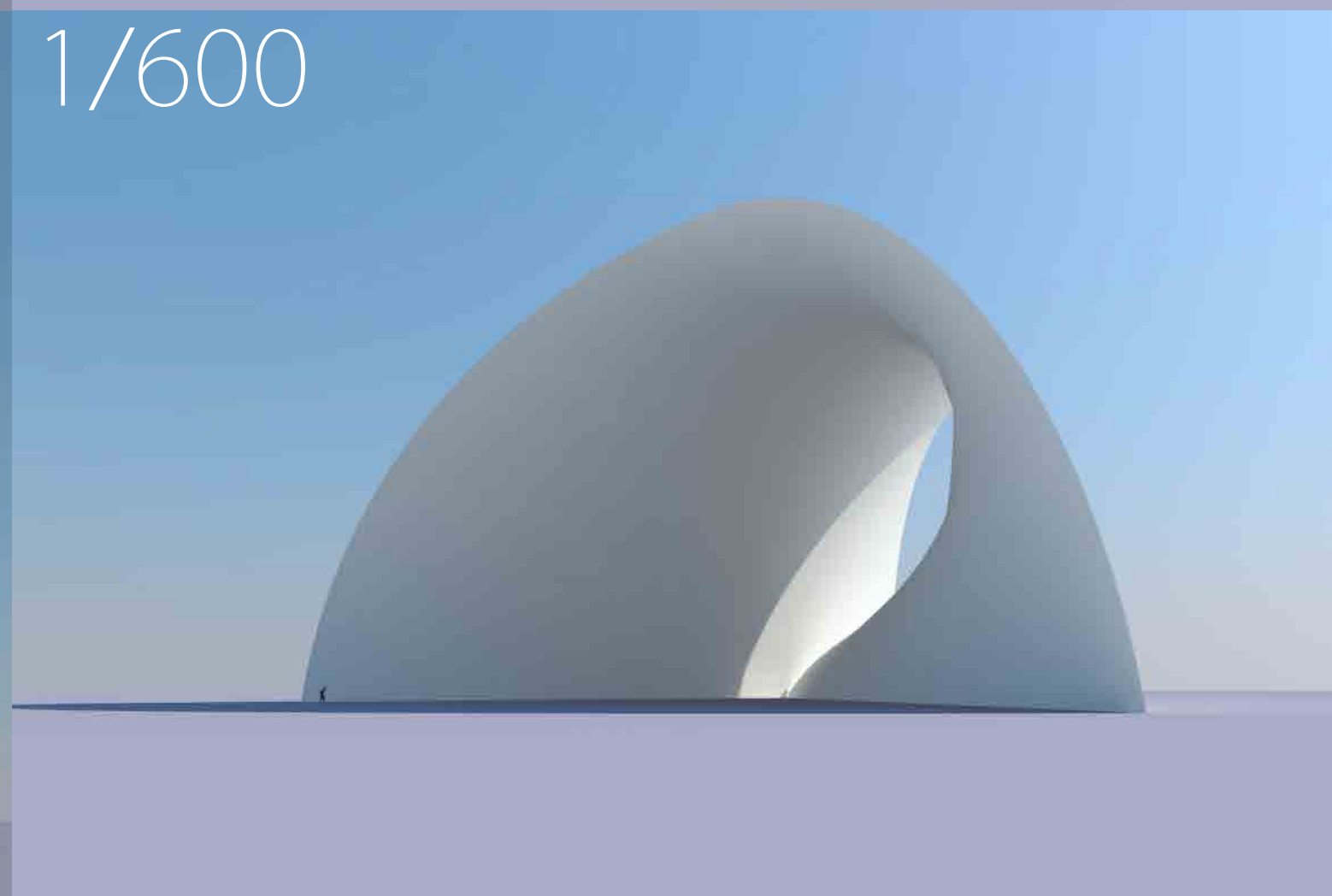
1/100



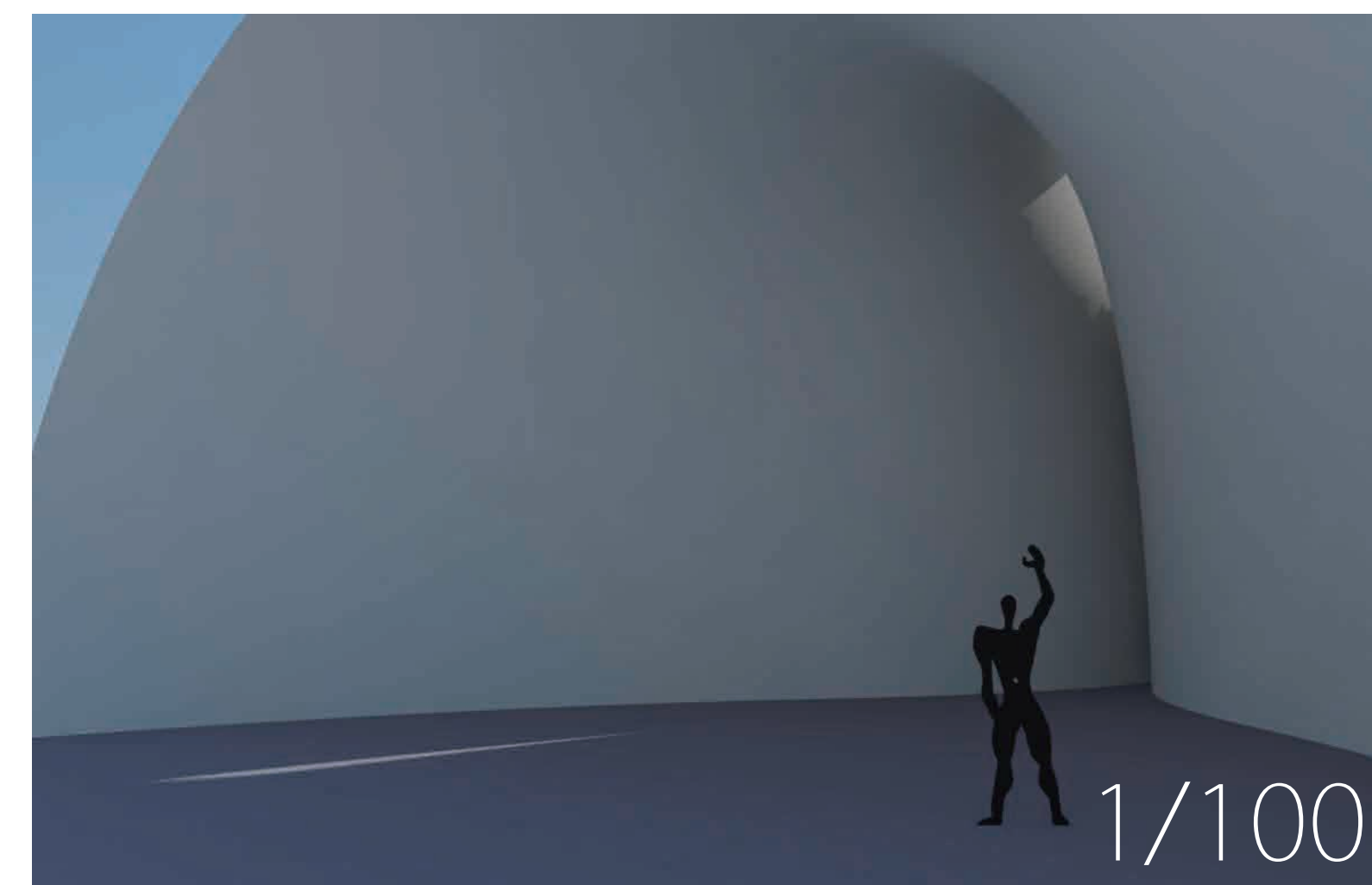
1/ 20



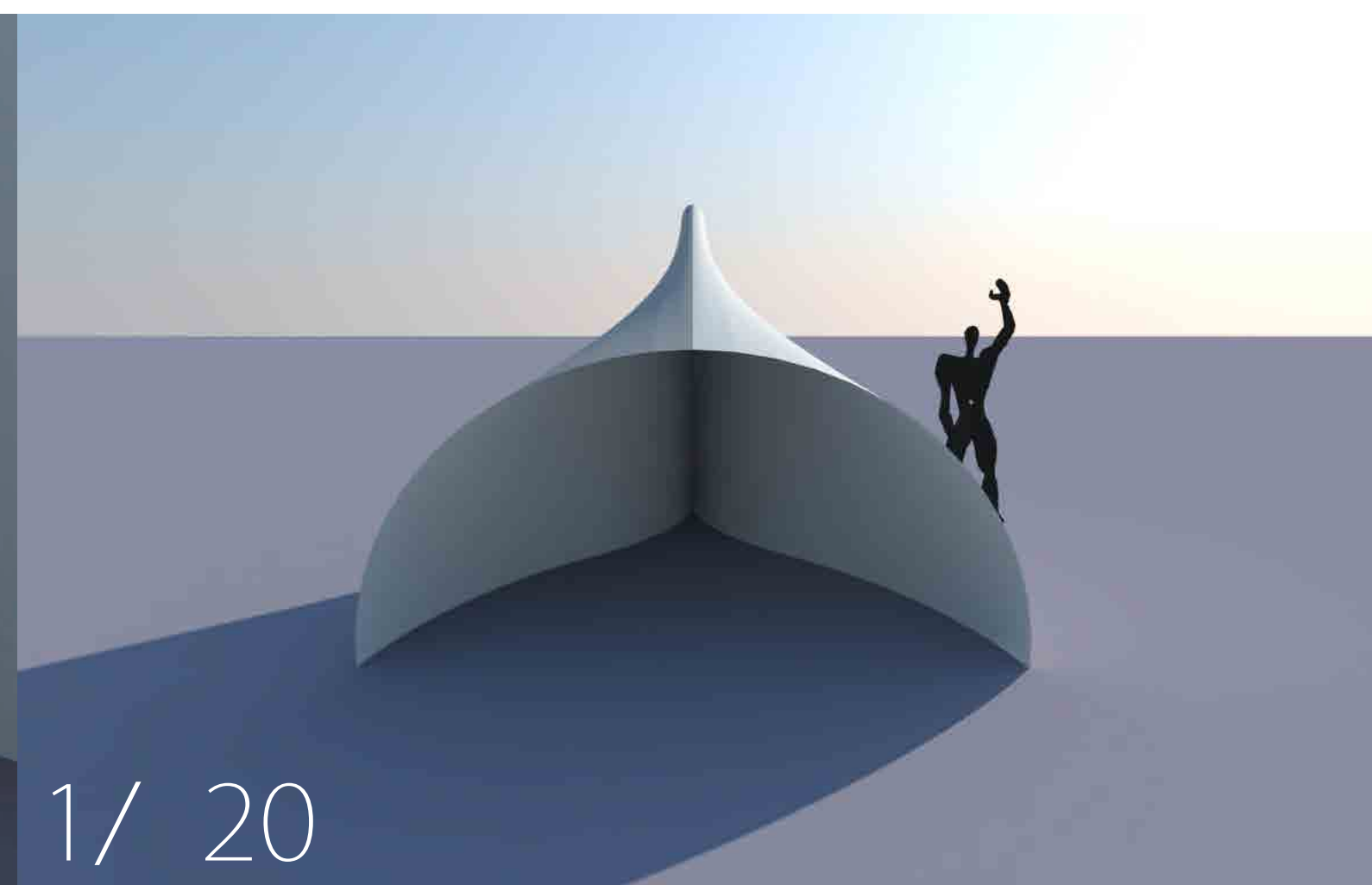
1/200



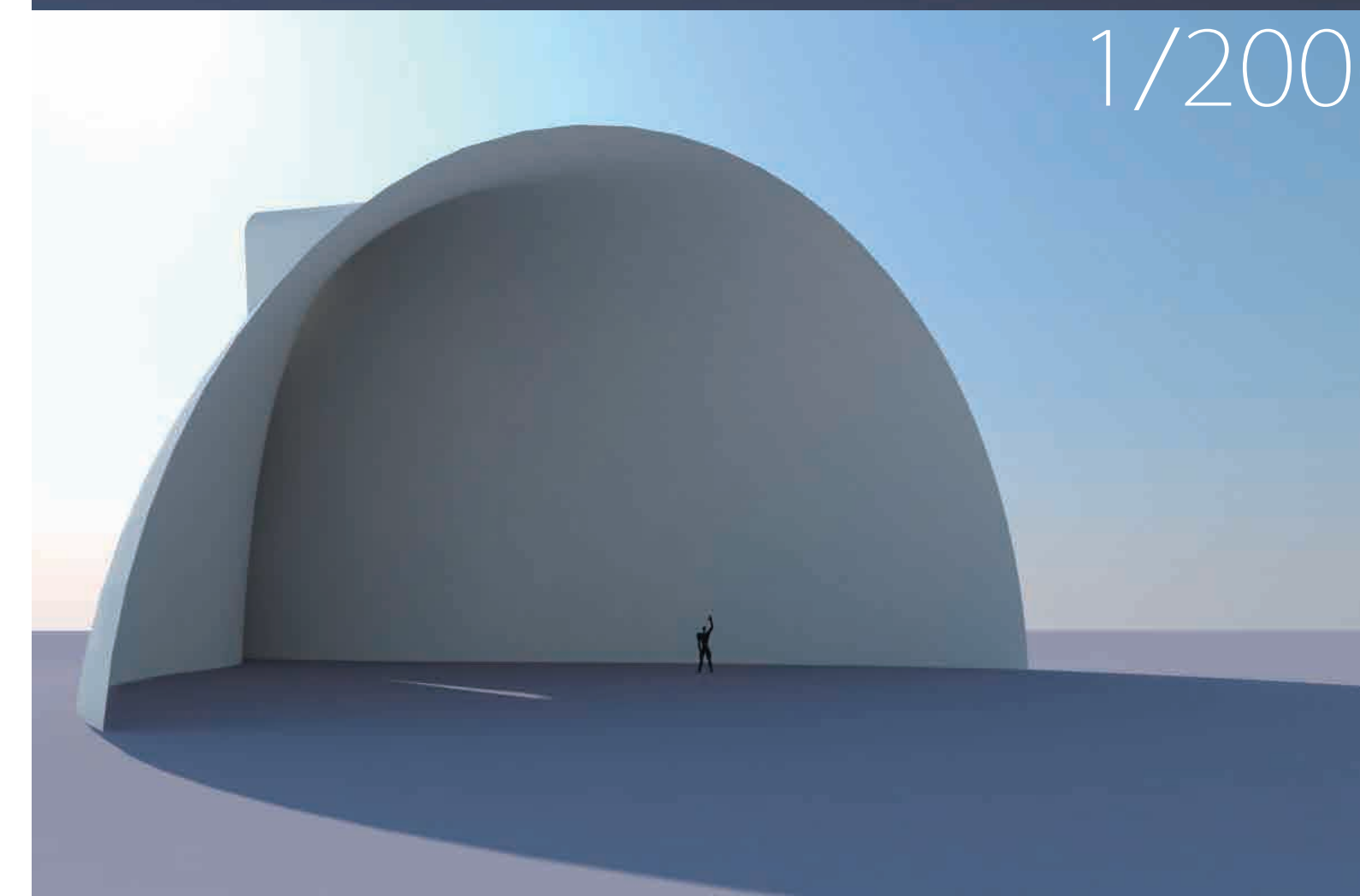
1/600



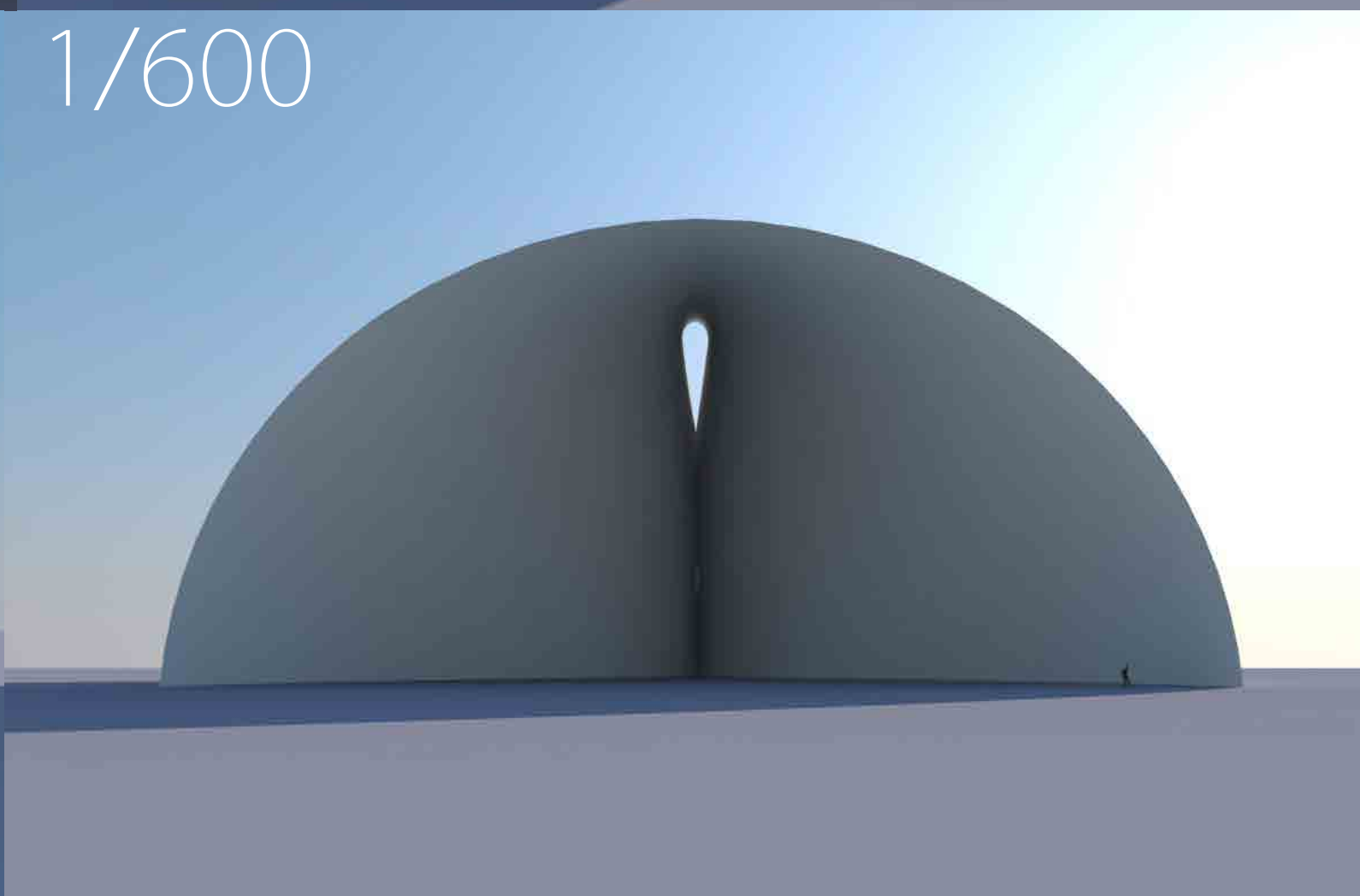
1/100



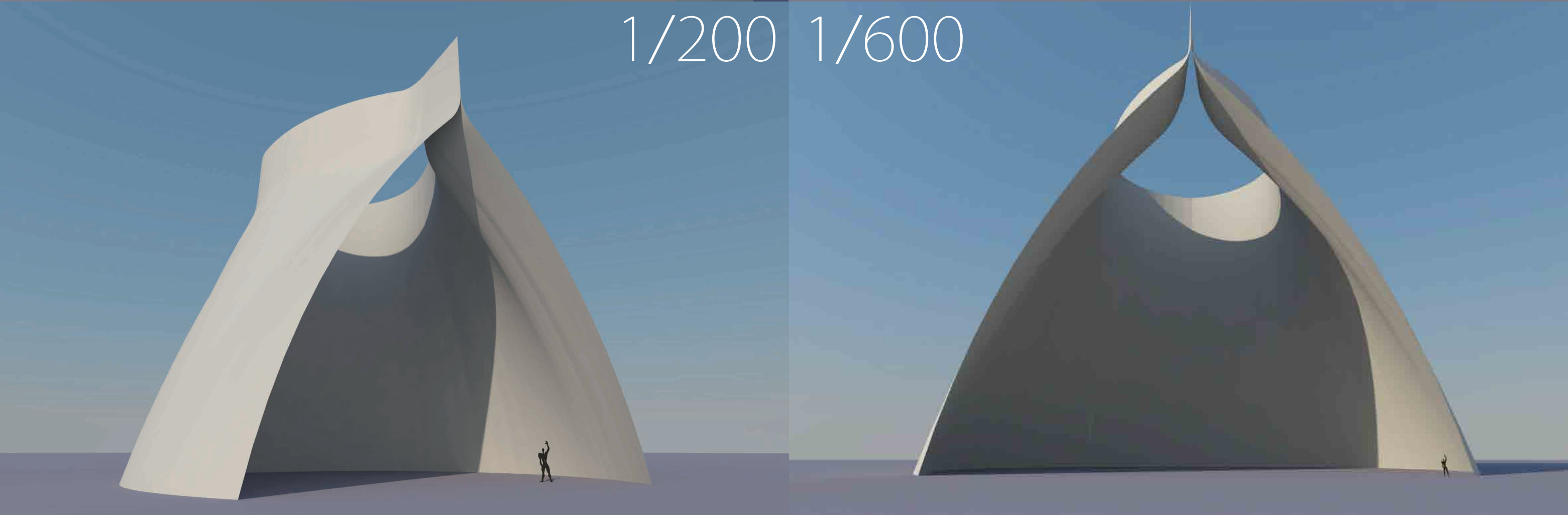
1/ 20



1/200

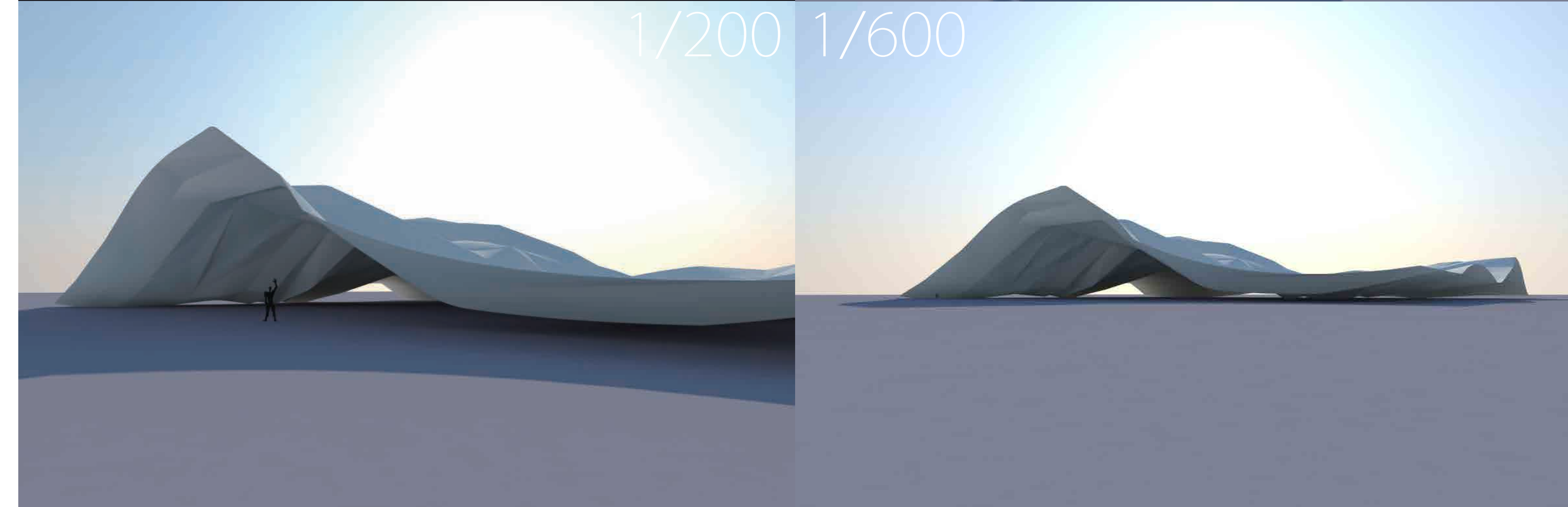
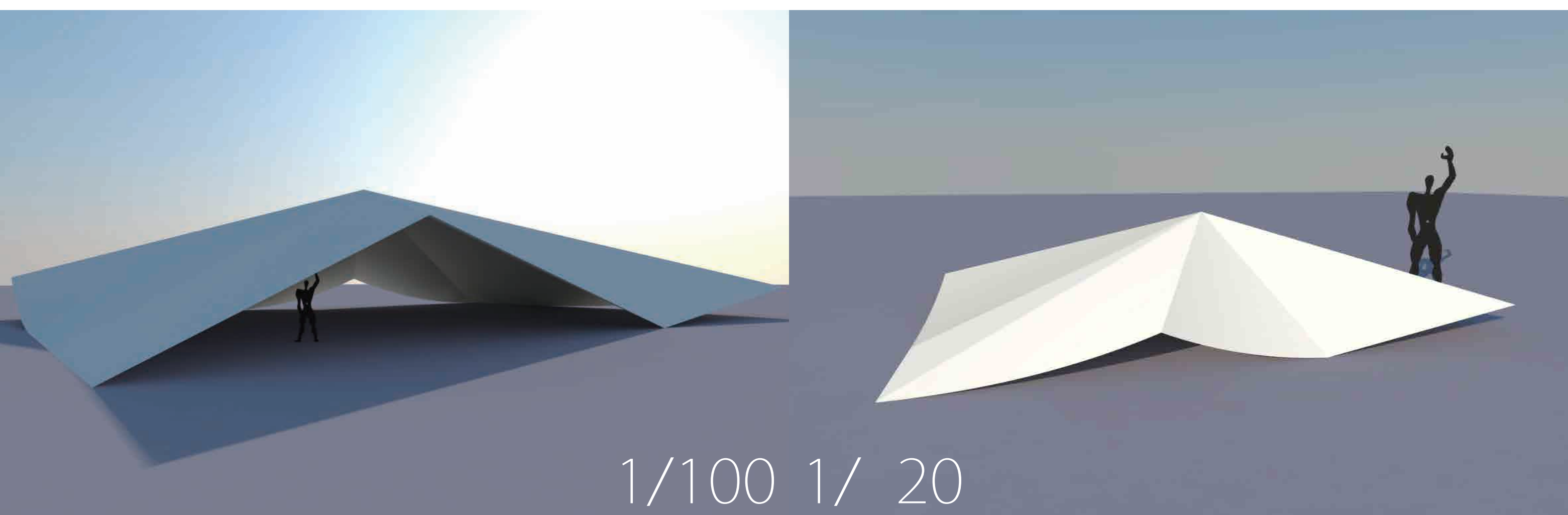


1/600



■ Paper 9

■ Paper 11



■ Paper 10

■ Paper 12

